

大宮駅周辺商業地域の住民を対象とした居住環境に関する満足度調査

駅周辺 商業地域 アンケート

正会員○金 井 章*1
同 三 浦 昌 生*2

1. はじめに

駅周辺を中心としたコンパクトな都市形成を推進するために、利便性の高い駅周辺に良好な居住環境を形成することが望まれる。本研究では、埼玉県下の中心的都市である大宮市の大宮駅周辺商業地域の住民を対象としたアンケート調査を行い、今後の大都市近郊における駅周辺の居住を行うための居住環境情報を収集した。

2. 大宮駅周辺地域の概要

アンケート調査に先立ち、国勢調査等の各種統計資料を基に、大宮駅東口商業地域の特性と居住者の属性を調査した。再開発が行われた大宮駅西口に対して、古くから町並みを形成していた東口は、駅前広場をはじめとした再開発が望まれている。また、高齢化が進んでおり、建築年数の長い戸建住宅に住む高齢者が多い。一方では、一部の建物において高層化が進んでいる。

3. アンケート調査

アンケート票は、①年齢や性別などの基本属性②住まいの選択基準(21項目)③健康性について(12項目)④利便性について(10項目)⑤ここ10数年来の大宮駅周辺の変化について⑥地域への愛着について⑦住まいとその周辺の住みやすさの総合的評価について⑧自由記入欄、によって構成した。住宅地図を用いて、調査対象地域に住み配布可能なすべての世帯を調べ、888世帯に対してアンケート票をポストに直接投函した。回収方法は郵送方式をとった。その結果257世帯(回収率29%)から回答を得た。

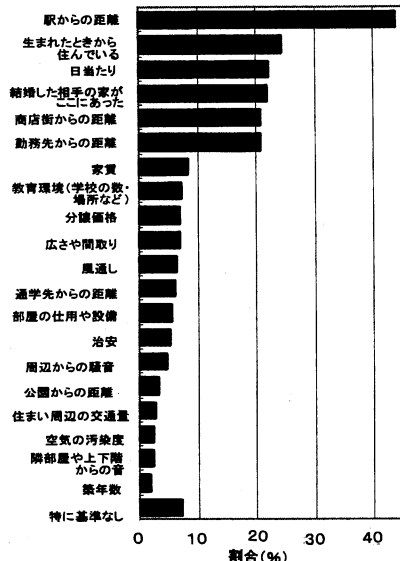


図1 住まいの選択基準

4. アンケート調査結果

回答者の平均年齢は55歳で、戸建住宅と集合住宅の比率は4:1、平均居住年数は、30年であった。

(1) 選択基準

現在住んでいる場所を、選択した理由を21項目あげ複数選択させたところ、各施設への距離を重視している回答者が多かった(図1)。

(2) 健康性

周辺からの騒音をうるさいと感じるかを4段階評価で聞いた。その結果、駅周辺にかかわらず、騒音を「うるさくない」「まったくうるさくない」と答えた回答者は、49%を占めた。(図2)。

続いて「とてもうるさい」「うるさい」と答えた回答者の中で、図3で示した項目の中から、どのような音をうるさいと感じるか、を複数選択させたところ「自動

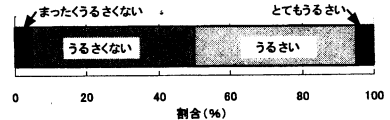


図2 「騒音をうるさいと感じるか」に対する回答

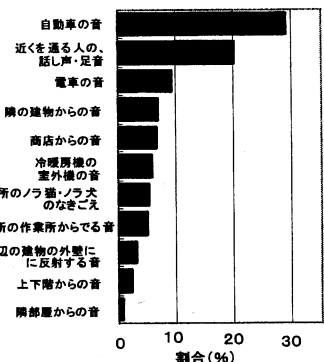


図3 不満を感じる騒音要因

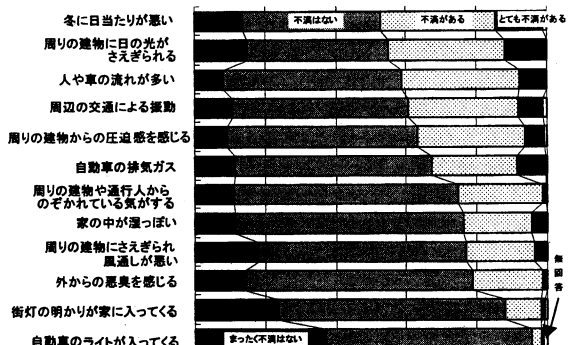


図4 健康性に対する質問への回答

A Survey on the Degree of Satisfaction of Residents in a Commercial Area near Omiya Station concerning Dwelling Environment

KANAI Akira and MIURA Masao

車の音」を選んだ回答者が 29%と最も多く、次に「近くを通る人の話し声・足音」20%「電車の音」9%と続いた。

次に、健康性に関する質問を 12 項目あげ、それぞれ 4 段階で評価させた。「冬に日当たりが悪い」「周りの建物に日の光がささげられる」と日照に関する不満が高く、「人や車の流れが多い」という不満が続いた (図 4)。

(3) 利便性

10 項目の各種施設をあげ、それぞれについて近いと感じるか遠いと感じるか聞いた (図 5)。市立体育館などの公営のスポーツ施設への距離では、「遠い」を選んだ回答者が最も多く 55%であった。しかし、他の施設では「近い」を選んだ回答者が「遠い」を選んだ回答者より多かった。特に大宮駅への距離、日常品を扱っている商店への距離、市役所または出張所への距離では、「近い」を選んだ回答者は 80%を越えていた。

(4) 総合的な評価

「この 10 数年来の大宮駅周辺の変化によってあなたのお住まいとその周辺は住みやすくなったか」の質問では、44%の回答者が「どちらでもない」と回答している一方で、「住みにくくなった」と「とても住みにくくなった」を合わせると 37%になった。また、自由記入欄では、「ビルや大きな立体駐車場ができて、まわりの環境が汚染された。」との意見が見られた。大宮駅東口の近年の開発が居住者にあまり支持されていないという

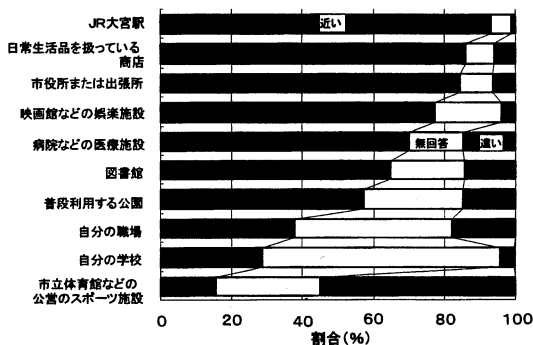


図5 各施設への距離に関する質問への回答

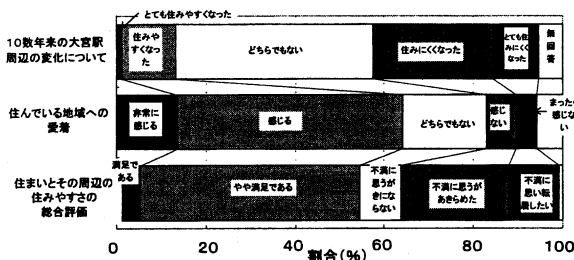


図6 総合的項目に対する回答

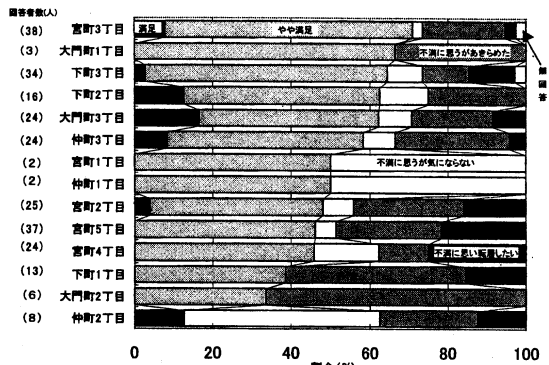


図7 町丁目別住まいとその周辺の住みやすさの総合評価

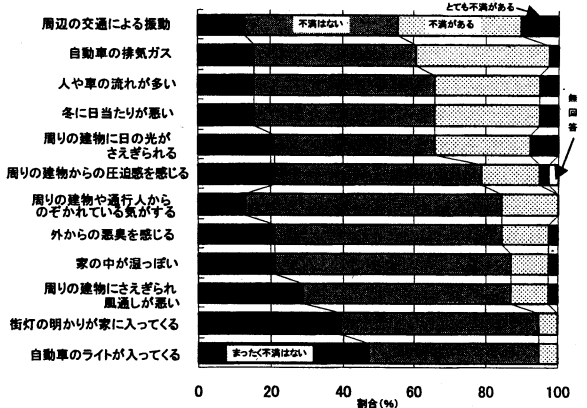


図8 宮町3丁目における住まいとその周辺の住みやすさの総合評価

ことがわかる。しかし、住んでいる地域への愛着を感じる人の割合は高く「非常に感じる」「感じる」と答えた回答者は合わせて 64%であった。

住まいとその周辺の住みやすさの総合評価は「やや満足である」と答えた回答者が 49%になったが「不満があきらめた」と 25%の回答者が答えている。

次に、住まいとその周辺の住みやすさの総合評価の質問を、各町丁目ごとに集計した。地域によって差異が見られる (図 7)。

図 8 は、満足度が最も高かった宮町 3 丁目の健康性に関する質問結果である。全体的に、満足度が高いが、全体の平均と比べると、日照に対する満足度は高く、自動車交通に起因する事項の満足度は低い。

5. まとめ

大宮駅周辺商業地域の居住者は、住まいを選択するときに、各種施設への距離及び日照を重視していた。その後居住して半数を超える回答者が総合的に満足している。その中でも、各種施設への距離には満足していた。健康性に関しては、地域によって各項目の満足度に差異があり、満足度の低かった項目を改善することが望まれる。

* 1 芝浦工業大学大学院修士課程
* 2 芝浦工業大学教授 工博

Graduate School, Shibaura Institute of Technology
Prof., Shibaura Institute of Technology, Dr. of Eng.